

(Ⅲ) 研修会の概要

◆三事業合同研修会

- 1 目的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、地域で活躍しているコーディネーター、安全管理員、専任指導員、関係職員等が一堂に集まり、互いの取組を有機的に組み合わせ、地域ぐるみでより充実した教育支援活動を実施するための気運を醸成する。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 各市町担当職員、学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援活動関係者、子育て支援機関関係者等
- 4 日時 平成23年7月22日（金）9：45～12：00
- 5 日程
9：30～ 9：45 受付
9：45～10：00 開会行事・3事業の事業説明
10：00～11：50 講演・グループワーク
講師：村田 和子先生（和歌山大学准教授）
11：50～11：55 質疑応答
12：00 閉会
- 6 場所 滋賀県庁新館7階大会議室
- 7 参加者数 43名
- 8 概要



(1) 演題「子どもを核とした地域づくり

～学校・家庭・地域の連携を支えるコーディネーターの役割～」

(2) 内容

今年度より3つの事業を連携して実施するにあたり、連携の素地にある、子どもや保護者がおかれている状況を明らかにし、地域で子どもを育てる視点を、和歌山県で取り組まれている先進的な事業（「きのくに教育コミュニティ」）を通して具体的な事例について講義をいただいた。また、連携を促進するためのキーパーソンとなるコーディネーターの役割や具体的な実践例を御教示いただいた。

(3) グループワークについて

事業ごとにグループ分けを行い、5～6名ずつの少人数で情報交換を行った。参加者から1人ずつ、日ごろの悩みや困っている点、他の市町に尋ねたいことなどについて、それぞれのグループで司会者の進行のもと、交流を深めた。

(4) 参加者のアンケートより

- ・学校・家庭・地域がつながることで、子どもが育ち、親が育つということ、家庭・学校・地域・行政のしくみづくりが大切なことがよくわかった。
- ・先生のなるほどと思う講演を聞いた後に、「こころの風景」とし、各班でそれぞれの方の講演を聞いての感想を聞くことができて良かった。
- ・個別具体的な事例で説明していただいた。コーディネーターを始めたばかりで、この機会は非常にタイムリーであった。

◆学校支援地域コーディネーター研修会

- 1 目 的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター、学校支援ボランティア、教職員、行政職員等
- 4 日 時 平成23年(2011年)10月28日(金)10:00~16:00
- 5 日 程
9:30~10:00 受付
10:00~10:15 事業説明
10:15~12:00 講演
講師：生重 幸恵 氏
(NPO法人 スクールアドバイス・ネットワーク)
13:00~13:20 情報提供 しが学校支援センター
13:20~15:20 県内の取組状況の情報交換
15:30~16:00 まとめ(講師より)
- 6 場 所 滋賀県庁新館7階 大会議室
- 7 参加者数 講演50名(午前)
地域コーディネーター養成講座36名(午後)



8 概 要

(1) 演題：「学校・家庭・地域の連携における教育支援活動」

(2) 内容

学校支援地域本部関係者が現代の子ども達が抱えている課題(新規学卒者が3年以内に離職する割合が大学卒・高校卒・中学卒の順に高い。将来の夢が描けず、就業時期に近づくにつれて目標を見失う傾向が見られる。)をとらえ、地域の大人の教育力を結集して、子どもたちの学校外教育活動を支援することの必要性を訴えられた。

その中で、学校教育と軌道をひとつにした社会教育を推進していく必要性を指導助言いただいた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

地域コーディネーターとして、学校とボランティア等との連絡調整で課題だと思われることや地域と協働で子どもを育てるため、本事業を今後も地域に根づかせていく上で課題だと思われることについて意見交換を行いました。



(4) 参加者のアンケートより

- ・午前中の講演については、とても興味をもって楽しく聞かせていただきました。
- ・実際に取り入れることができる、取り組んでみたい事例などもありました。コーディネーターという仕事について再確認するとともに、熱意と信念を持ち続けることが大切だと改めて思いました。

◆二事業合同研修会（放課後子ども・家庭教育支援活動）

- 1 目 的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、地域で活躍しているコーディネーター、安全管理員、専任指導員、関係職員等が一堂に集まり、互いの取組を有機的に組み合わせて、地域ぐるみでより充実した教育支援活動を実施するための気運を醸成する。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者・各市町担当職員
- 4 日 時 平成23年10月25日（火）9：30～12：15
- 5 日 程

9：15～ 9：30 受付

9：30～ 9：35 開会行事・事業説明

9：35～11：05 講演：「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方について」

講師：園田 雅春 先生（大阪教育大学教授）

11：15～12：10 情報交換会

12：15 閉会

6 場 所 草津市民交流プラザ 大会議室

7 参加者数 63名

8 概 要

（1）演題「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方」

（2）内容

放課後子どもプランおよび家庭教育支援活動の指導者や関係者に、今の子どもたちのおかれている状況や求めていること等について理解を深めてもらうとともに、地域で子どもを育むために、どのように関係者同士がつながっていけばよいのかという点についても、大阪府で放課後子どもプラン推進委員会の委員長を務められている園田先生の経験をもとに指導助言いただいた。

（3）情報交換会について

事業ごとにグループ分けをして、5～6名ずつの少人数で情報交換を行った。まず、参加者から1人ずつ、日ごろの悩みや困っている点、他の市町に尋ねたいことなどを順に出してもらい、その後は、それぞれのグループで司会者の進行の元、自由にやりとりしてもらった。

（4）参加者のアンケートより

- ・園田先生の講演は、聞きやすく、内容も私たちに実際に関わる事柄だったので、とても勉強になりました。情報交換会も、いろんな方の意見や悩みが聞けてとても良かったです。是非、園田先生の話をもっと聞いてみたいです。
- ・子どもの見方や接し方が大変勉強になりました。また、グループ討論をすることで、今の家庭教育支援の課題も明確になりました。



◆三事業合同成果報告会

- 1 目的 実施市町における取組の成果を広く関係者に情報発信し、それぞれの取組の連携を深め、社会全体で子どもの育ちを支える気運を醸成する。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、家庭教育支援活動関係者、市町担当職員、小中学校の教職員、PTA関係者
- 4 日時 平成24年1月27日(金) 9:20~12:00
- 5 日程
9:00~ 9:20 受付
9:20~ 9:30 開会行事
9:30~10:15 成果報告発表
10:30~11:50 講演
講師 高橋 興 氏 (青森中央学院大学)
11:50~12:00 質疑応答
12:00 閉会
- 6 場所 滋賀県庁新館7階 大会議室
- 7 参加者数 90名
- 8 概要

(1) 成果報告発表

- * 東近江市地域教育協議会の取組
- * 近江八幡市家庭教育支援チームの取組
- * 長浜市土曜学び座の取組



- ・ 地域の子どもは地域で守り育てる



- ・ 学校と地域と家庭の連携強化が図られた



- ・ 週末の子どもの安心、安全な居場所として定着

(2) 演題：「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動を促進するために必要なことは何か」

(3) 内容

大震災で明らかになった「絆」や「コミュニティ」は、自然に形成され、強化され、持続されるものではない。

確かな方法は、日常活動の地道な積み重ねしかない。

「学校・家庭・地域の連携」は一貫した大きな流れであり、最終目標は「まちづくり」である。

取組の担い手が、地域の実態に目をこらし、地域に根をはった活動を進めることの大切さ等について指導助言いただいた。



(4) 参加者のアンケートより

- ・ 地域の現状、学校での子ども達の様子、保護者の状況をきちんと把握し、学校側(先生)からの要望に応えながら、多くの人とのつながりや交流、それぞれの立場ごとに学びの場や意見の交流を図って、連携をとっていくことが大切だということそれぞれの取組の発表で感じました。
- ・ 鋭い感覚と今日的な問題を焦点に取り上げていただき、今どういうことを中心に考えていかなければならないかを教えていただいた。聞き応えのある話だった。